

27年9月11日

調査・研修報告書(会派個人用)

会派名: 清政会

報告者: 坂本義明

実施場所: 兵庫県朝来市

実施日: 27年9月5日(土)

■目的・課題・問題事項(調査・研修に先立っての思いや本市の現状など)

地域包括ケアシステムの先進地の有方について、朝来市での
地域包括ケアマネージメントの実情を調査するため

■参考とすべき事項

各方面、介護、医療、看護地域(向江町西隣)の
人がチームとして問題解決の為に話し合い
当事者の問題を話し合い、情報提供し合う甚しい
時間と労力の解決へと導いてくれたこと、個人の
尊敬と、その心で神経を使っていたからの息の長い
作業の現実を知った。

■提言・その他(本市の施策等にどのように活用すべきかなど)

現在本市には社会福祉協議会への作業を
お願いして私の知り限りでは「ひまわり」と言う相談支援
組織も立ち上げています。行政、警察、民生委員との連携
で行って聞かれています。これに朝来市の様な各事業所等
を含めた会派での意見交換も必要だと思います。仕事と
は言え、大変根気の作業、頭が下ります。

※ 調査・研修終了後、一週間以内に会派事務局へ提出してください。

調査・研修報告書(会派個人用)

会派名：清政会

報告者：近藤久子

実施場所：兵庫県朝来市和田山ジュピターホール

実施日：平成27年9月5日

■ 目的・課題・問題事項(調査・研修に先立っての思いや本市の現状 など)

朝来市発・地域ケア会議視察研修会に参加 13:00~17:00

「朝来市の地域ケア会議」

～暮らしを支える資源開発・政策形成への道筋～

朝来市地域包括支援センター主任介護支援専門員 足立 里江

「スーパービジョンのシステムづくり」

さかもと医院居宅介護支援事業所主任介護支援専門員 三多 久実子

「ケアマネジメント支援会議の実際」

事例提供者のケアマネージャーと、理学療法士を加えた11名による支援会議が壇上にて行われた。

■ 参考とすべき事項

人口約32,000人、10,000人は高齢者。その半分は一人暮らしか高齢者のみの世帯。我が国のどこにでもあるような朝来市に、その取り組みを知るために札幌から長崎まで400人が集まった。

地域包括システムはシンプルに言うと「人」と「人」をつなぐこと、「人」と「機関」をつなぐこと。人と人がつながる中で、一人ひとりの暮らしを支え、つながり合いながらみんなで困りごとを共有し、その「困りごと」を種に資源開発・政策形成ができると思ったと語る、リーダーの足立さんの言葉には全て存在感があり、この人材無くしては朝来の取り組みも注目されることは無かったのではと思える。

高齢者一人ひとりの暮らしにくさが顕著になってきた中での取り組みは、

- 1、① すでに繋がっているものはその繋がりを強化 ② まだ繋がっていないものは繋げていく(関係機関や制度) ③ そして、無いものは作り出すこと(朝来市のビジョン)
- 2、利用者支援とケアマネ支援を分ける。「個別課題」と「地域課題」を分ける。
- 3、地域ケア会議に5つの機能を持たせそれぞれの会議の機能を明確にする。一つの会議に機能を沢山盛り込まない。
- 4、縦割りではなく、福祉・地域医療・総合政策・社会福祉協議会など部署を横断した企画チームを結成
- 5、地域の見守り体制の強化と、住民に対する普及啓発活動。

■ 提言・その他(本市の施策等にどのように活用すべきか など)

本市においても、介護保険や医療保険だけでは支えきれない様々な問題を抱える高齢者が増加し、同時に支援困難ケースの増加にもつながる。地域の様子も急激に変化を見せている。地域包括ケアシステムを「みんなで考える地域の支えあいづくり」とか誰にでもわかりやすい表現に変えて、避けられない取り組みとして市民に啓発すべきである。

人口減はあっても、高齢化は進んでも、そこに住む我々が居心地の良さを感じられる庄原市を目指すために、知恵を絞りたい。それぞれが自分に何ができるかを。

超高齢社会という誰も体験したことのない初めての世界に突入する事への自覚と覚悟がいる。